



エイサー

SOUL

EISA

躍動！
受け継がれる
踊りと魂



誰でも初めてエイサーを見た時、無条件に胸を打たれてしまいます。なぜ、見る者の心をこんなにも震わせるのでしょうか。それは太鼓の音や踊りの勇壮さであるかもしれません。しかし心を打つ本当の理由は、各青年会が自分のシマ(字)のエイサーに誇りを持って、魂をこめて踊っているからなのです。

Whenever a person sees an Eisa performance for the first time, it is almost certain that they will be dazzled. What is it about Eisa that manages to move people? Perhaps it's the sound of the drums echoing in their hearts, or the passionate movements in the dancing that is valiant and soul-stirring. The real reason why the Eisa touches the hearts of the people lies in the spirit of the dancers. The performers from each of the youth associations in the city are ever so proud to display the Eisa dance of their hometowns.



進化、多様化する 伝統芸能

*Evolving and Diversifying
Traditional Performing Arts*

エイサーのまち宣言

エイサーは本来、青年男女がエイサーを踊りながら集落内を練り歩き（道ジュネー）、各家の無病息災や家内安全、繁盛を祈って、祖先の霊を供養するために行われていました。ところが、戦後は各地のエイサーを集めてエイサー大会が行われるようになり、エイサーも様変わりし、各地の青年会がいろいろな工夫を凝らし、現在のエイサーまつりのような魅せるエイサーへと変化してきました。

そのような歴史を背景に、2007（平成19）年6月13日、沖縄市は“エイサーのメッカ”としてのPRと地域の活性化を目的に「エイサーのまち」を宣言し、エイサー文化の継承・発展ならびに青少年の健全育成などに取り組んでいます。



沖縄最大のエイサーイベント 「沖縄全島エイサーまつり」

「沖縄全島エイサーまつり」は1956（昭和31）年に開催された「全島エイサーコンクール」が起源です。戦後、基地依存経済の中で商業都市として発展してきたコザ市（現沖縄市）でしたが、米国民政府による「オフ・リミッツ（米軍人・軍属・家族が民間地域へ出入りすることを禁ずる規制）」が布かれたことによって商工業者が大ダメージを受けました。市民が暗く、希望を失いかけていた時、戦後復興のシンボルでもあったエイサーがコザ市で盛んに行われていたことから「エイサーで元気を取り戻そう！」とエイサーコンクールが開催されたのです。



第1回大会は沖縄全島から選抜された9団体が出場し、3万人の観衆を集めました。出場団体は一定の審査基準によって審査され、隊列や技、構成人数、衣装など、それぞれの青年会らしい工夫を凝らし競い合いました。しかし、地域によって、美的価値の違うエイサーに優劣の差をつけるのには限界があり、審査結果に不満をあらわにする青年会も出始めたため、コンクールは廃止され、第22回（1977年）からは「沖縄全島エイサーまつり」として開催されるようになりました。



EISA



Evolving and Diversifying Traditional Performing Arts

Originally, eisa was an event to offer offerings to the spirits of ancestors and to dance and parade through the village to pray for the health and safety of each family, but after the war, it became the more captivating eisa we see in the current festivals today.

As the "Mecca of Eisa," Okinawa City declared itself the "City of Eisa" on June 13, 2007, and has been working on the preservation and development of eisa culture and the wholesome upbringing of young people.

The "Zento Eisa Competition" began in 1956, as eisa was actively performed in Koza City (now Okinawa City) as a symbol of postwar recovery.

In 1977, the name was changed to the current "Okinawa Zento Eisa Festival," which has developed into the largest eisa festival in the prefecture, boasting a three-day attendance of approximately 300,000 people. It also serves as the inspiration for the film, "Eisa Dondon," which provides a glimpse of the magic of the Okinawa Zento Eisa Festival and the essence of eisa.

Located in Koza Music Town, the Eisa Museum is an interactive facility where visitors can have fun as they learn about the history and culture of eisa. Visitors can enjoy various eisa-related activities, such as a mock eisa experience and a photo shoot where they can wear eisa costumes.

エイサー会館

コザ・ミュージックタウンの中にある、エイサーの歴史や文化を楽しみながら学べる体験型の施設です。1階には、エイサー関連のグッズが手に入るショップや、エイサーの基本情報を知ることができるラウンジがあり、2階にはスクリーンの映像に合わせてエイサーを疑似体験できる「エイサーリズム体験」、タブレット端末を利用して地域のエイサーの違いを体感できる「エイサー音楽検索コンテンツ」などVRを駆使した展示ブースがある他、エイサーの衣装を着て撮影できるフォトスポット、沖縄全島エイサーまつりの歴史が分かるコーナーなど、エイサーについてさまざまなコンテンツを楽しむことができます。



映画「エイサーどんどん」

沖縄全島エイサーまつりへの出場を目指す青年会の成長と、家族のきずなを描いたヒューマンドラマで、沖縄全島エイサーまつりの歴史や魅力を伝えるとともに、エイサーの本質に触れることができる映画です。

※沖縄全島エイサーまつりオフィシャルサイト (<https://www.zentoeisa.com/>) から視聴することができます。



©沖縄全島エイサーまつり実行委員会



沖縄市青年団協議会 会長
仲間 良成さん

エイサー文化を次世代へ！

沖縄市青年団協議会は、各青年会間との親睦交流を図りながら、エイサー活動を通して沖縄市の発展とまちづくりに貢献することを主な目的の一つとしています。最近では観光客や県外からの修学旅行生を対象としたエイサー体験の対応や、県外のイベントでエイサーを披露する機会が増えました。

今後は、より多くの方々にエイサーに興味を持ってもらえるよう、円滑な連絡調整を図ることでエイサー演舞の場を増やし、この魅力あるエイサー文化を次世代に繋げていきたいです。

SPORTS

PASSION

スポーツ

情熱

沖縄市は2021(令和3)年、スポーツ庁が新設したスポーツを活用した特色あるまちづくりに取り組んでいる自治体を応援するための表彰制度「スポまち!長官表彰」を受賞しました。表彰されたのは全国30の自治体で、1997(平成9)年に「スポーツコンベンションシティ宣言」をした沖縄市は、沖縄アリーナなどを活用したスポーツ関連ビジネスの発掘・育成が評価されています。

In 2021, Okinawa City was awarded the "Sports Town! Commissioner's Award," an award system that was newly established by the Japanese Sports Agency to support local governments working to develop their towns and cities with a distinctive focus on sports. Thirty local governments from across Japan were awarded this prize, and Okinawa City, which declared itself "A Sports Convention City" in 1997, has been praised for embarking and nurturing sports-related businesses using the Okinawa Arena and other facilities.

アツク!
高みをめざして!
情熱を解き放つ

©琉球ゴールデンキングス





©琉球ゴールデンキングス



©琉球ゴールデンキングス

スポーツ コンベンションシティ宣言

Sports convention city
declaration

充実したスポーツ施設、 トップアスリートが集うまち

沖縄市では1996(平成8)年9月24日の「スポーツコンベンションシティ宣言」を基に、2014(平成26)年「沖縄市スポーツ推進計画」を策定し、スポーツを「する」だけでなく、「観る」ことや「支える」ことなどにより健康や生きがい、夢や明日への活力など、スポーツを通じた人づくり・まちづくりを推進してきました。

沖縄市内にはコザ運動公園(沖縄市立

総合運動場)、沖縄県総合運動公園という充実したスポーツ施設があり、プロアマ問わず数多くのスポーツ選手がトレーニング・キャンプに訪れています。

プロ野球セ・リーグの広島東洋カープは1982(昭和57)年から40年以上コザ運動公園で春季キャンプを行ってきました。近年では、沖縄のプロスポーツチームである日本男子プロバスケットボールBリーグの琉球ゴールデンキングスやプロサッカーリーグのFC琉球が沖縄市をホームタウンにしている他、2018(平成30)年6月から

は、プロバレーボールチームのパナソニックパンサーズが沖縄市をサブホームタウンとして活動を開始しました。

また、東京オリンピックで金メダルを獲得したフランスの男子バレーボールチームはオリンピックの事前合宿に続いて、2022(令和4)年6月～7月、FIVBバレーボールネーションズリーグ2022事前合宿を沖縄市体育館で実施しました。



沖縄県を代表する 市民マラソン大会

1993(平成5)年から開催されている「おきなわマラソン」は、県内外から一万人を超えるランナーが参加する大規模な大会です。フルマラソン競技部門と一般部門、高校・一般の10kmロードレースが併設されています。

フルマラソンのコースは、沖縄市・うるま市・北中城村の3市村にまたがっており、世界遺産の勝連城跡前や嘉手納空軍基地の中など、沖縄本島中部エリアならではのスポットを走れます。他にも、海を見渡せる絶景ポイントやヤシの木が立ち並ぶ街道など、まるで外国に来た気分になります。

県内モータースポーツの聖地へ モータースポーツ拠点施設

2021(令和3)年4月、沖縄市が整備したモータースポーツ拠点施設「モータースポーツマルチフィールド沖縄」を供用開始しました。

本施設は、沖縄市が取り組んでいる「(仮称)沖縄サーキット整備事業」の短期ビジョンとして、「県内モータースポーツの聖地化」の推進や、交通安全の普及啓発、地域活性化等を目的に取り組んでいます。

モータースポーツ以外にも、警察の技能訓練、自動車関連企業による利用や地域イベントなど、幅広く活用されています。



A Sports Convention City

In 2004, Okinawa City established the Okinawa City Sports Promotion Plan, which is based on the city's Sports Convention City Declaration, to promote development of the city and its people through sports. The city has two fully-equipped facilities and welcomes both professional and amateur athletes for training sessions and camps. The professional baseball team Hiroshima Toyo Carp has been holding its spring training camp at Koza Athletic Park for more than 40 years. Moreover, Okinawa City is also home to the professional basketball team Ryukyu Golden Kings and soccer team FC Ryukyu. The city is the second hometown for volleyball teams based in other prefectures.

Held annually in February, the Okinawa Marathon is a major sports event for all of Okinawa Prefecture with more than 10,000 runners participating. The marathon proceeds along a unique course traversing Kadena Air Base and passing by world heritage sites.

In 2021, construction of Motorsports Multi Field Okinawa was completed, marking Okinawa's first facility for the enjoyment of motorsports. We hope to make this facility the heart of motor sports in Okinawa Prefecture.

Okinawa City was also selected to host the FIBA Basketball World Cup 2023.



FIBA バスケットボールW杯 2023 沖縄アリーナで開催

2023(令和5)年8月25日から9月3日までの10日間、沖縄市の沖縄アリーナを会場に、バスケットボールの世界大会「FIBA バスケットボールワールドカップ2023(以下、ワールドカップ)」が開催されました。

今回は、日本(沖縄)、フィリピン(マニラ)、インドネシア(ジャカルタ)の3カ国が開催国となり、史上初の共催となりました。

日本の舞台となる沖縄アリーナには、8カ国(日本、オーストラリア、フィンランド、ドイツ、スロベニア、ベネズエラ、ジョージア、カーボベルデ)が集結し、熱い戦いが繰り広げられました。

日本はワールドカップで史上初となる3勝をあげ、アジア1位として48年ぶりに自力でオリンピック出場権を獲得しました。



©FIBA



沖縄市スポーツ協会 会長
稲嶺 啓美さん

次世代を育成し、まちを スポーツで盛り上げたい

沖縄市では「スポーツコンベンションシティ宣言」を基に、2014(平成26)年「沖縄市スポーツ推進計画」を策定し、スポーツを「する」だけでなく、「観る」ことや「支える」ことなどにより健康や生きがい、夢や明日への活力など、スポーツを通じた人づくり・まちづくりを推進してきました。

「スポーツコンベンションシティ宣言」にふさわしいまちになれるように、スポーツを通して沖縄市を盛り上げていきたいです。



MUSIC

音楽

感性

響き渡るリズムが
感性をくすぐる！



戦後、米軍基地の門前町として発展してきた沖縄市では、近くにある米軍基地の影響もあり、昔から歌い継がれてきた民謡、ポップスなどの沖縄の音楽と、ロックやジャズといったアメリカの音楽が交じり合い、独自の音楽文化が生まれました。沖縄市では、ミュージックタウン音市場を拠点に、独自の文化と感性を活かした「音楽によるまちづくり」を推進しています。

Okinawa City developed as a base town in the years following the war with the US military facilities built adjacent to the city. Okinawan folk songs and pop music passed down the generations fused with American influences such as rock and jazz and a unique musical culture was born. Okinawa City is promoting 'urban development through music,' by spotlighting the distinct culture and sensibility of the city with Music Town Otoichiba as its hub of activities.



戦後沖縄の *Koza, the Cradle of Postwar Okinawan music* 音楽の発祥地、コザ

民謡、ロック、ジャズ、フォーク まちに溢れる多彩な ミュージックシーン

戦後、沖縄の復興を後押ししたものに音楽
芸能文化があります。

沖縄市では、米軍基地の影響を受けなが
ら、伝統文化と異文化が融合する独特な文化
が生まれ、多様なジャンルの音楽を演奏する
ミュージシャンにより、ゲート通りのライブハ
ウスなどを中心に賑わいを創出してきました。

アメリカ文化の影響を強く受けたロック、
ジャズをはじめ、民謡やエイサーといった伝
統芸能など多彩な音楽・芸能文化が発展し、
コザ市（現沖縄市）に沖縄中から人が集まり
ました。

その中には、戦後の沖縄民謡を支えた嘉手

苅林昌、山内昌徳、喜納昌永、登川誠仁など
錚々たるメンバーが沖縄市に住み音楽活動
を行ったことで、コザ*は民謡のまちとしての
地位を揺るぎないものにしていきます。

ベトナム戦争時代、ゲート通りやBCストリー
ト（現：中央パークアベニュー）、米軍基地内の
クラブで米兵を相手に演奏を行うロックバン
ドが次々に誕生しました。

1960年代終盤には、海外でハードロックが
流行し、沖縄にもハードロックの波が押し寄せ、
沖縄のロックバンドである「紫」「コンディショ
ングリーン」らが、戦地に向かうアメリカ軍兵士
達を相手に毎晩パワフルなステージを繰り広
げ、オキナワロックの礎を築き上げました。

1970年代になると、日本復帰運動など
を背景にコザ市出身のフォークシンガーら
が中心となり、「沖縄フォーク村」が生まれ、



沖縄フォークブームも起きています。

1980年代にはその沖縄ミュージックが本
土へも飛び火し、1990年代前半のりんけん
バンドやBEGINなどの活躍、後半になると安
室奈美恵やKiroroなど新しい世代が全国的
に活躍し、「沖縄は芸能の島」というイメージ
が定着します。

2000年代に入ると、ORANGE RANGEや
MONGOL800、HYなど多くのミュージシャ
ンが全国的に活躍しています。毎年夏に開催
される歴史あるロックフェス「ピースフルラ
ブ・ロックフェスティバル」は、熱いライブで大
勢の観客を魅了します。沖縄市は沖縄の
ミュージックシーンが最も熱いまちです。

*コザとは
沖縄市の中心市街地であるコザ十字路から胡屋（ごや）地
区、中の町地区まで広がる文化圏の愛称。米軍が越来村の
胡屋地区をKOZAと呼んだことをきっかけに、一般の人々
もコザと呼ぶようになったと言われています。

“音楽のまち”のシンボル 「ミュージックタウン音市場」

2007（平成19）年にオープンしたミュ
ージックタウン音市場は、沖縄市の個性豊
かな地域文化を活かした地域活性化の核
となる音楽施設で、最大収容人数1,100
人のライブホールをはじめ、リハーサルや
練習にも使用できるスタジオなどが整備
されています。また、ストリートライブや各
種イベントが行える音楽広場も活用され

ています。

週末には沖縄伝統のエイサーやプロの
アーティストによる音楽ライブ、中高生の
音楽コンテスト、ダンスショーなど、様々
なイベントが行われており、沖縄市が推進
する音楽のまちづくりの拠点として、「賑わ
い創出事業」「人材育成事業」「音楽産業支
援事業」などを通じて地域の活性化に取り
組んでいます。



紫

©沖縄県ロック協会



コンディショニンググリーン

©沖縄県ロック協会



マリーウィズメデューサ

©沖縄県ロック協会



山内昌徳

©沖縄市音楽資料館おんがく村



登川誠仁

★
コザ
の
音楽

沖縄県ロック協会 事務局長
沖縄県音楽文化振興会 理事長
喜屋武幸雄さん

個々の力と想いを創作活動の情熱へ

戦後の動乱期、コザ市（現沖縄市）では、優れた
民謡歌手や数多くの有名ロックバンド、音楽プロ
デューサーが生まれ、作詞・作曲を行い自分たち
の想いを歌いました。

現在は、AIで作詞・作曲ができる便利な時代で
すが、原点回帰して、個々が持つ力・想いを集積し
て爆発させることが大切だと考えます。一人ひと
りが持っている力・想いを大事にしながら、今後
も創作活動を行っていきたいと思います。



こどもたち

その笑顔はまちのエネルギー
未来はきつと輝いている、

笑顔

2005(平成17)年の国勢調査で15歳未満の年少人口の割合が全国1位だった沖縄市は、こどもたちが夢に向かって元気にたくましく育つ環境づくりを目的として、2008(平成20)年に「こどものまち宣言」をしました。現在、こどもにやさしいまちを実現するべく、「質の高い教育・保育の安定的な提供」「親子の健やかで切れ目のない支援」「こどもを大切に育てるための支援体制の整備」「こどもの可能性を育み、未来を応援する環境整備」を基本目標とし、こどものまちを推進しています。

According to the 2005 national census, Okinawa City had the highest proportion of children under the age of 15 in Japan. With this, Okinawa City declared itself "A City of Children", with the aim of creating an environment where children are nurtured to work towards their dreams and aspirations with vitality and strength. To realize a child-friendly city and to promote the city as "A City of Children", Okinawa City is implementing measures with basic goals such as "stable provision of high-quality education and childcare," "healthy and seamless support for parents and children," "improvement of support systems for the careful nurturing of children," and "creating an environment that nurtures the possibilities of children and encourages their future goals."



SMILES



People, Environment, Future Creation 人、環境、未来づくり

「こどものまち」の拠点

沖縄こどもの国は、「人をつくり環境をつくり沖縄の未来をつくる」ことを基本理念として、沖縄ならではの生き物に出会える「動物園」、子どもたちの体験型ミュージアム「ワンダーミュージアム」、ボランティアをはじめとした市民活動の拠点となる「チルドレンズセンター」の3つの施設で構成される複合体験型施設です。

動物園では亜熱帯海洋性気候を活かした沖縄ならではの動物の飼育や展示方法を目指して、約150種1,000個体の動物たちを飼育しています。ホワイトライオン、アミメキリンなど人気の動物と共に、「琉球弧エリア」では琉球弧独自の自然環境や文化について感じ学ぶことができます。ワンダーミュージアムは「理解と創造は

驚きにはじまる」をコンセプトに、哲学・科学・芸術を3本柱に掲げた、沖縄初・沖縄唯一のチルドレンズミュージアムで、展示の中には自主性や想像力などを高めるプログラムが取り込まれています。

ボランティア活動など市民参画の拠点である「チルドレンズセンター」には沖縄県の実環境教育の拠点である沖縄県地域環境センターも併設しています。



CHILDREN



ユニークな 「出前児童館キッズデポ」

沖縄市では、地域の公民館や公園を活用し、遊びに関するプログラムをとおして、放課後の子どもたちの居場所「出前児童館キッズデポ」を提供しています。運営しているのは特定非営利活動法人「沖縄ハンズオンNPO」で、月曜日から金曜日まで、公民館や公園など市内15カ所で開催し、午後4時から午後6時までの2時間、市内在住の児童と保護者を対象に、様々な学びの場を提供。「レクリエーション遊び」「しまくとうば紙芝居」「モノづくり遊び」「ペットボトルを使用した科学実験」「食の循環プログラム」など様々なプログラムを実施しており、年間5,000人の子どもたちが利用しています。



© 沖縄ハンズオン NPO

People, the Environment and Shaping the Future

The Okinawa Zoo & Museum is an experience-based facility complex consisting of a Zoo, a Wonder Museum, and a Children's Center. The zoo houses about 150 species of animals, which number 1,000 in total. The Wonder Museum is Okinawa's first and only Children's Museum, based on the pillars of philosophy, science and art. The Children's Center is a hub for civic engagement.

In Okinawa City, an initiative called "Dema Kids' Depot" is run after school using local community centers and parks. A nonprofit organization called Okinawa Hands-On NPO provides a variety of learning opportunities for children and their parents living in the city, with 5,000 children using the program annually.

Okinawa City provides extensive support for childcare. Okinawa City's Child-Rearing Generation-Inclusive Support Center "Yui Po-to" has a general consultation counter that provides support from public health nurses, midwives, and other professionals. In addition, the Okinawa City Child-Development Support Center, Okinawa Family Support Center, and Akebono Childcare Support Center also provide support and consultation for a wide range of child-raising concerns and needs.

Furthermore, the city offers childcare consultation services from childcare professionals and opportunities for parents to interact with each other through its "Gathering Place" program held at community centers, and also operates the "OKIiku" portal site for childcare support.

子育ての悩み、疑問、相談に 幅広く対応、支援

沖縄市子育て世代包括支援センター「結（ゆい）ぽ〜と」は、妊娠・出産・子育てに関する「総合相談窓口」で、保健師・助産師・栄養士などの専門職が、電話や来所での相談に対応。2020（令和2）年4月から全ての子どもとその家庭や妊産婦に対して、専門的な相談対応や訪問などによる継続的な支援を実施する「こども家庭総合支援拠点」を設置し、妊娠期から子育て期まで、切れ目のない支援体制を整えています。

沖縄市こども発達支援センターは、遊びを通して子どもの発達を支える療育を親子で体験することで、子どもを理解し共に考えていく場所。保育士の遊びに加え、発達相談・言語指導など専門職の視点を含めて相談に対応しています。

沖縄市ファミリー・サポート・センターは、「子育ての手助けをしてほしい」「子育ての手伝いをしたい」という人たちが地域で相互援助活動を行う会員組織。保育施設の開始前終了後の預かりや、買い物など外出時の預かりなど一人ひとりの子育て家庭に合ったサポートを行っています。



あけぼの子育て支援センターでは、乳幼児をもつ親やその家族がより楽しく子育てができるための情報交換や相談に応じながら、親子で遊べる場所を提供しています。また、子どもと一緒に遊びながら、保育士による子育て相談、仲間づくり、親同士の交流などができるつどいの広場事業を市内4カ所の公民館等で実施しています。



子育てに役立つ独自の情報を発信 「OKIiku（おきいく）」

「OKIiku（おきいく）」は沖縄市が運営する子育て支援のためのポータルサイトです。沖縄市内の保育施設や、困ったときの相談先や子育てに役立つ制度などの情報を掲載しており、パソコン、スマートフォンで気軽に情報をチェックできます。



★
フクフク
のたか

沖縄こどもの国 園長
神里 興弘さん

沖縄こどもの国で育む夢と未来

「こどものまち宣言」が議決された際、沖縄こどもの国を拠点に推進事業を行うことが決まりました。現在、当園では、子ども向け博物館「ワンダーミュージアム」、絵本コーナーと環境教育の拠点を併設した「チルドレンズセンター」、動物園の3つの施設を擁し事業を展開しています。

2024年に市制施行50周年を迎える節目の年に、沖縄市内の子どもたちの入園無料化と夜の動物園の通年開催を計画中です。

平和 × 希望

希望の種をまき
安らぎの花を咲かせる



1985(昭和60)年に「核兵器廃絶平和都市宣言」をした沖縄市では、現在、「平和事業推進アクションプラン(改訂版)」(平成31年2月策定)に基づいて、「平和行政の推進」「平和学習の充実による平和意識の高揚」「市民参加による平和活動の支援」の三つの柱でさまざまな平和事業に取り組んでいます。

In 1985, Okinawa City declared itself to be a city devoted to "A City of Peace and Nuclear Weapons Abolishment." Today, in accordance with the "Peace Promotion Action Plan Revised edition" (established February 2019), we are working to further a variety of peace initiatives, revolving around three pillars: promoting peace through government services, improving peace studies to raise awareness about peace, and supporting city residents' participation in peace activities.



PEACE × HOPE

Connecting. Learning. Acting

つなぐ、学ぶ行動する

沖縄市の主な平和事業

1945(昭和20)年9月7日、旧越來村森根(現在の沖縄市域嘉手納空軍基地内)において、沖縄戦の降伏調印式が執り行われました。沖縄市では、沖縄戦が公式に終結した「9月7日」を「沖縄市民平和の日」として条例で定め、8月1日から9月7日を平和月間として、さまざまな行事を実施しています。

平和で希望のある社会を未来へ受け継いでいくためには、過去から現在までの時間をつなぎ合わせ、あらためて「平和とは何か」を考えていく必要があります。沖縄市では、学校における平和教育の充実に力を入れるとともに、沖縄戦の教訓をはじめ27年間の米軍統治下時代の沖縄、平和を脅かす現代の諸問題など、過去の歴史も振り返りながら、今を生きる全ての世代の問題として平和を考える「沖縄市民平和講座」や嘉手納空軍基地内に現存する沖縄戦の降伏調印の碑などの史跡を訪ねる「沖縄市戦跡めぐり」を実施し、市民が平和について考える機会を提供しています。

Connecting, Learning, Acting

On September 7, 1945, the signing ceremony for the surrender of the Battle of Okinawa was held at Morine, in what was formerly Goeku Village (now Kadena Air Base). Okinawa City designated September 7 as "Okinawa Citizens' Peace Day" and August 1 to September 7 as "Peace Month," a period during which various events are held.

The city also publishes and operates "Okinawa Citizens' Peace Day," a video-based peace education content website.

The City of Okinawa conducts training for peace ambassadors with the aim of fostering human resources to create a peaceful 21st century. Each year, students nominated by junior high schools in the city and adults selected from the public are appointed as Okinawa City Peace Ambassadors who promote peace within the prefecture and beyond through peace exchanges and other activities.

Okinawa City's peace mascot, "Kyuna (9.7)," also conveys the importance of peace through active participation in peace events.

また、映像や画像を活用した平和学習コンテンツサイト「沖縄市民平和の日」を公開・運営しており、子どもから大人まで、市民がいつでも学べる環境を提供しています。一部のコンテンツについては、インターネット環境以外でも視聴できるよう収録したDVDの貸し出しも行っています。

沖縄市では、平和学習、平和交流を通して戦争の悲惨さ、平和の尊さ、生命の大切さを学び、平和な21世紀を創造する人材育成を目的に、1991(平成3)年から平和大使研修を実施してきました。この事業は、毎年市内の中学校から推薦された生徒と公募で選ばれた社会人を沖縄市平和大使として任命し、座学・フィールドワークをはじめ、平和交流を通して、平和について県内外に広く発信するもので、これまでに認定された平和大使は500人を超えています。



沖縄市の平和イメージキャラクター

ソテツの妖精「キューナ」

「沖縄市民平和の日」を多くの市民の方に知ってもらい、平和について向き合い、考える日として確立していくことを目的に、ソテツの妖精「キューナ(9・7)」が市内で開催される行事に積極的に参加しています。



知り、感じ、気づき、子どもたちへ未来を繋ぎたい



令和4年度社会人 平和大使
兼島 祐賀子さん

沖縄戦に関する本に出合ったことがきっかけで、自分に何かできないかと思い、平和大使に応募しました。

平和大使の活動を通して多くのことを学び、知る大切さを痛感しました。知ることで感じるができずし、自分の命がどうやって受け継がれてきたか自分の中で気づきがありました。

生きたくても生きられなかった戦争時代を過ごした子どもたちについて、次世代を担う子どもたちに伝えていくことで、今の子どもたちは前向きに生きられる未来があることを知って欲しいですね。



観光

Tourism

出合いと体験、
心ときめく
グローバル・シティ



沖縄市の魅力は、戦後、米軍嘉手納基地の門前町として栄えてきた歴史に由来する、沖縄の伝統文化とアメリカやアジアの文化が交じり合った、グローバルで独特な風土にあります。その魅力を観光資源として活かすために、1974(昭和49)年、沖縄市は「国際文化観光都市」を宣言し、芸能、工芸、音楽、スポーツ、イベントなど、さまざまな観光コンテンツの充実、観光施設の整備などに取り組んでいます。

Okinawa City's appeal can be found in its unique cosmopolitan culture blending the cultures of United States and Asia with Okinawa's traditional culture, a process that originated in its postwar history as a prosperous city next to Kadena Air Base. To better leverage that appeal as a resource for promoting tourism, Okinawa City issued a declaration proclaiming itself to be an International City of Culture and Tourism, and has strived to provide better performing arts, crafts, music, sports, events, and many other types of programs for tourists as well as improve tourist facilities.

GLOBAL

ナイトコンテンツetc.

多彩な観光資源



ナイトコンテンツ

コザの愛称で親しまれる沖縄市の中心地は、米軍基地の門前町として栄え、街並みには異国情緒が漂っています。コザゲート通りやパルミラ通り、中央パークアベニュー、一番街商店街、中の町エリアなど、街灯や英字のネオンサインが照らす夜のコザは、昼間とはまた違った雰囲気包まれます。沖縄らしさを感じられる民謡酒場、ロックやジャズなどライブハウスの人気が高く、夜のエンターテインメントを楽しむため、たくさんの人で賑わいます。

多くの外国人が暮らしている沖縄市では本格的な現地の料理が堪能できる多国

籍料理店や、沖縄の郷土料理店など、さまざまな国の食文化が楽しめるのも魅力。さらにバーやクラブ、居酒屋など、いづれも个性的でコザならではの夜の観光が満喫できます。最近では、「せんべろ」が楽しめるお店が増え、ディープな街の夜をはしご酒で楽しむ人の姿が多く見られます。



© 沖縄市観光物産振興協会

ガイドと巡る
「沖縄市まちまーい」

魅力あふれるコザのまちを、地元をよく知るガイドの案内でディープに楽しめる「沖縄市まちまーい」。「After1945～街は歴史博物館～」 「琉球王朝物語、越来グスクを訪ねて」 「ウートー 祈りの古集落 KOJA」 「ディープタウン・コザナイト」 「コザの街、映画の中を歩く旅」 などさまざまなツアーがあり、ガイドブックには載っていない穴場スポットや面白い情報を知ることができます。



© 沖縄市観光物産振興協会

(沖縄市観光物産振興協会 098-989-5566)

Nightlife and a Variety of Other Tourist Attractions

The central area of Okinawa City, nicknamed "Kōza," flourished as a gateway town near a U.S. military base, and the streets have an exotic atmosphere. Illuminated by streetlights and English neon signs, Kōza at night has a different atmosphere than during the day. Minyo (Okinawan folk song) bars with an Okinawan "feel," and venues with rock, jazz, and other live music are very popular and attract a large number of people.

Home to many foreign nationals, Okinawa City is also a great place to enjoy food cultures from various countries. In addition, bars, clubs, and Japanese-style izakaya pubs are all unique and offer an enjoyable nighttime sightseeing experience unique to Kōza. Recently, an increasing number of venues offer great deals on drinks, and many people can be seen barhopping and having a great time.

As the best way to explore the charms of Kōza, we recommend the Okinawa City Machimai tour, where you are taken care of by a guide who knows the local area well. You can learn interesting facts and discover secret spots that are not listed in the guidebooks!

観光スポット



国際文化観光都市を目指す沖縄市には、動物園とチルドレンズミュージアム等が併設された「沖縄こどもの国」をはじめ、沖縄の文化とアメリカ文化が融合した異国情緒あふれる観光スポットや自然を楽しめる環境など、数々の魅力的なスポットがあります。

Tourist Attractions

Okinawa City aims to become a city of international culture and tourism and features many tourist attractions. These include the Okinawa Zoo and Museum which houses a zoo and a children's museum, other sightseeing spots with a unique exotic feel that blends Okinawan and American cultures, and an environment where visitors can enjoy the wonderful nature.

美らヤシパークオキナワ

東南植物楽園

Southeast Botanical Gardens



© 東南植物楽園

約1,300種類以上の熱帯・亜熱帯植物が観賞できる植物園。2エリアから成り、水上楽園エリアでは数多くのヤシの木や、バオバブ、世界一長寿の木リュウケツジュなど見どころいっぱい。また、植物園エリアにある日本

一のユスラヤシ並木は必見です。その他、約50種類の動物とふれあえ、バードパフォーマンスショーも開催されています。毎年10月下旬～5月下旬の期間は、光が織りなす幻想的な雰囲気と沖縄の南国感を調和させた沖縄南国イルミネーションも人気です。

Southeast Botanical Gardens

The Southeast Botanical Gardens consists of two areas and offers a chance to admire over 1,300 varieties of tropical and subtropical plants. The Water Garden is full of things to see, like various palm trees, baobabs, and dragon trees, which are said to be the longest-living trees in the world. The only pathway lined with Alexandra palm trees in Japan is found in the Botanical Garden, which is also a must-see. Visitors can also interact with approximately 50 different kinds of animals within the park, and there is a bird performance show to enjoy. The Okinawa Tropical Illumination is held every year from late October to late May and is a popular event where you can enjoy the magical atmosphere created by lights combined with the delightful, tropical feel of Okinawa.

倉敷ダム

Kurashiki Dam



ダム湖百選に選定されている多目的ダム。水と戯れ、遊び、自然学習する空間として整備されており、やんばるの河川からの注水を利用した全長約110mの水辺エリアは、水深が浅く小さな子どもでも安心して水遊び

ができます。また、「水のおもしろさ」をコンセプトに造られたダムの役割や水の性質について学べる資料館、ダム湖の全景や沖縄市の市街地が眺望できる高さ41mの展望タワーもあります。

Kurashiki dam

A multipurpose dam selected as one of Japan's 100 best reservoirs, the Kurashiki Dam is designed for visitors to play, enjoy, and learn about water and nature. The waterfront that extends about 110 meters utilizes water flow from the northern Yanbaru region and is a safe and shallow area for small children to play. Built on the park grounds is a museum based on the concept of "interesting facts about water" where people can learn about the role of dams and the properties of water. There is also an observation tower that stands 41 meters in height, offering a panoramic view of the reservoir and the scenery of Okinawa City.

沖縄こどもの国

Okinawa Zoo and Museum



沖縄市と北中城村にまたがる広大な敷地に、1970年5月5日のこどもの日に開園した50年以上の歴史を誇る日本最南端の動物園。琉球弧に生息する希少動物を含む約150種類の動物が飼育されています。園

内には、「科学」「哲学」「芸術」の3要素からなるハンズオン展示により身近な不思議を体感できる「ワンダーミュージアム」が併設され、楽しみながら学べる複合体験型施設です。

Okinawa Zoo and Museum

Boasting a history that extends over five decades, the Okinawa Zoo and Museum opened on May 5, 1970, on the extensive grounds straddling Okinawa City and Kitanakagusuku Village, and is the southernmost zoo in Japan. Including some rare species that are found in the Ryukyu arc, there are approximately 150 species of animals at the zoo. The Wonder Museum also stands within the park grounds and offers a chance for visitors to experience the wonders of familiar things through hands-on exhibits. People can learn while having fun at this experience-based complex facility consisting of three elements; science, philosophy, and art.

プラザハウスショッピングセンター

Plaza House Shopping Center



アメリカ統治下時代の1954年に、沖縄に在住する米軍関係者やその家族の生活を充足させる商業施設として開業した日本初といわれるショッピングモール。衣・食・住・遊を叶える個性

豊かな専門店54店舗が連なり、パリやミラノから直輸入したファッション・アクセサリをはじめ、エスニック雑貨や各国料理のレストランなど、地元のお土産品から上質なブランド品まで幅広く取り揃えています。

Plaza House Shopping Center

Said to be the first shopping mall in Japan, the Plaza House Shopping Center opened in 1954 while Okinawa was under the US administration, catering to the US military personnel and their families in Okinawa. There are 54 unique specialty stores offering clothing, food, everyday items, and entertainment. From fashion and accessories directly imported from Paris and Milan to various exotic goods, restaurants offering dishes from around the world, and local souvenirs to high-end brand items, this shopping center offers a wide range of products.

コザゲート通り

Kōza Gate Street



コザゲート通りはその名の通り、米軍嘉手納基地のゲート（出入口）から、国道330号と交わる胡屋十字路までの通りをさします。戦後、米兵を相手にした商業が栄えたことから、今でも外国人相手のバーやカフェ、クラブ、ドレス・スーツなどのお店が建ち並ぶため、戦後80年近く経った今でも当時の面影が残る異国情緒あふれる街並みが見られます。

Kōza gate street

As the name suggests, Kōza Gate Street extends from the gates of the US military facility, Kadena Air Base, to the Goya Intersection where it crosses with National Route 330. Businesses catering to the US forces flourished in this area after the war, and even today, businesses meeting the demands of people from overseas are found here, with bars, cafes, clubs, and clothing shops offering dresses and suits lining the street, allowing us to still feel and see the traces of the past nearly 80 years after the war.